

【東日本大震災から10年】災害リスクをセルフチェック 「敷地と建物の災害リスク簡易診断リスト」公開

東日本大震災から10年が経とうとしている今、改めて災害について対策を見直す重要性を感じている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

業界初の個人向け不動産コンサルティング・ホームインスペクション（住宅診断）を提供している“不動産の達人”株式会社さくら事務所（東京都渋谷区／社長：大西倫加）はこの度、災害の防止対策を今一度見直すことを目的とした「敷地と建物の災害リスク簡易診断リスト」を公開します。

「敷地と建物の災害リスク簡易診断リスト」は、「敷地」「戸建て」「旧耐震マンション」の3つのカテゴリから全25項目で、**1つでもあてはまったら要注意です。**

当てはまる数が多ければ多いほど、災害リスクが高まります。ぜひご自宅の災害防止対策を見直す機会にご利用ください。

敷地と建物の災害リスク簡易診断リスト

監修：だいち災害リスク研究所

敷地	① 周囲に水田・沼地・谷地はありますか？
	② 周囲に古い家屋が密集し、敷地前の道路は車が2台並んで通れない幅ですか？
	③ 敷地から半径50m以内に海や川、池がありますか？
	④ 海や川との高さの差がほとんどない敷地ですか？
	⑤ 海や川、沼を埋めた場所や、盛土造成地ですか？ <small>※埋立地・大規模盛土造成地を含む</small>
	⑥ 高さ3m以上のがけ地、のり面に面した敷地ですか？
	⑦ 高さ1m以上の擁壁の上にありますか？
	⑧ 擁壁が亀裂や欠け、ふくらみはみられますか？
	⑨ 道路に面した古いブロック塀はありますか？
	⑩ 土砂災害警戒区域・特別警戒区域内ですか？
	⑪ 津波災害警戒区域・特別警戒区域内ですか？

詳細はこちら⇒ <https://www.sakurajimusyo.com/guide/29114/>

【チェックリスト一例】

【敷地】周囲に水田・沼地・谷地はありますか？

お住まいのまわりが水田や沼地、谷地などが目立つ土地は、強固な地盤と比較すると揺れやすく地震の被害を受けやすい可能性が高まります。

【戸建て】間取りは長方形よりもL字やT字など凹凸がある形状に近いですか？

間取り図や平面図が長方形よりもL字やT字など複雑な形だと、建物の耐震性が低い可能性が高まります。



【旧耐震マンション】建物が大きくセットバックしていますか？

建物を横から見たときに、下の階よりも上の階が2/3より小さくなっている（セットバックしている）と、耐震性能が低い可能性が高まります。

■不動産の達人 株式会社さくら事務所■（東京都渋谷区／代表取締役社長：大西倫加）<https://www.sakurajimusyo.com/>

株式会社さくら事務所は「人と不動産のより幸せな関係を追求し、豊かで美しい社会を次世代に手渡すこと」を理念として活動する、業界初の個人向け総合不動産コンサルティング企業です。1999年、不動産コンサルタント長嶋修が設立。第三者性を堅持した立場から、利害にとらわれない住宅診断（ホームインスペクション）やマンション管理組合向けコンサルティング、不動産購入に関する様々なアドバイスを行う「不動産の達人サービス」を提供、51,556組*の実績を持っています。*21/2/28現在

本件に関するお問い合わせ・取材のお申込みは、お気軽に下記までご連絡ください。

株式会社さくら事務所 東京都渋谷区桜丘町29-24 桜丘リージェンシー101 <https://www.sakurajimusyo.com/>
 TEL 03-6455-0726 FAX 03-6455-0022 広報室：石原・今野（こんの） press@sakurajimusyo.com
 広報直通 LINE ID：@143newvt ※LINEからもお気軽にお問合せください。